

入しないようにしなければならない。

8. 埋戻し未施工の場合、降雨や湧水で掘削内に水が溜り、管路の浮き上がり等の恐れがあるので、充水するか、浮き上がり防止のための土被りとなるまで埋戻しを行わなければならない。
9. 直管の継手箇所角度をとる曲げ配管を行ってはならない。ただし、工事現場の状況により施工上必要がある場合は、監督員の承諾を得なければならない。
10. 異形管の挿し口と継輪は直接接合を行ってはならない。
11. N S形及びS II形離脱防止押輪（継輪用）は、一体化長範囲内の継輪部に使用しなければならない。
12. 私有分岐バルブを設置する場合は、設置箇所付近に他の埋設物などの障害物が無いことを必ず確認するとともに、設置後の私有分岐バルブが「全閉」となっていることを必ず確認しなければならない。
13. S 50形の継手には押輪を使用するが、異形管の継手箇所及び切管端部に直管受口を接合する場合には抜け止め押輪を使用しなければならない。

1-2-2 管切断工及び挿口加工工

1. 管の切断に当たっては、所要の切管長及び切断箇所を正確に定め、切断線の標線を管の全周にわたって入れなければならない。
2. 管の切断は、管軸に対して直角に行わなければならない。
3. 切管が必要な場合には管材料を照合し、経済的な使用に努めなければならない。特に大口径管の切断は、管外面に白線で表示してある切用管を使用するものとする。
また、切管として使用可能な寸法は、表 1-1 に示す数値以上とする。

表 1 - 1 切管最小寸法

(mm)

呼び径 D	K 形		S50 形		UF 形		NS 形		GX 形		S 形		PN 形	
	1 号	2 号	1 号	2 号	1 号	2 号	1 号	2 号	1 号	2 号	1 号	2 号	1 号	2 号
50			660 705	770 860										
75	500	500					700	600	660 700	770 770				
100	〃	600					〃	〃	660 720	〃				
150	〃	〃					〃	700	680 740	〃				
200	〃	〃					〃	〃	680 740	〃				
300	〃	〃					〃	800	720 760	820 820				
400	〃	〃					〃	〃	— 970	— 1020			800	800
500	〃	〃					910	1010					〃	〃
600	〃	〃					920	1020					900	900
700	〃	〃			700	600	950	1120					〃	〃
800	〃	〃			〃	〃	960	1140					〃	〃
900	〃	〃			〃	〃	970	1150					〃	〃
1000	〃	〃			〃	〃	1090	1150					〃	〃
1100	〃	〃			〃	〃					1000	1000	〃	〃
1200	〃	〃			〃	〃					〃	〃	〃	〃
1350	〃	700			800	700					〃	〃	〃	〃
1500	〃	〃			〃	〃					〃	〃		
1600	600	〃			〃	〃					〃	〃		
1650	〃	〃			〃	〃					〃	〃		
1800	〃	〃			〃	〃					〃	〃		

(注) 長尺継輪を使用する場合は除く。

(注) GX 切管寸法の上段は切管ユニットを使用する場合、下段は挿しロリングを使用する場合の寸法。

(注) S50 切管挿し口を直管 (切管 1 号) 受口に接合する場合は下段の寸法

4. 鋳鉄管の切断は、切断機で行うことを原則とする。なお、異形管は切断してはならない。
5. 受注者は、動力源にエンジンをういた切断機の使用に当たって、騒音に対して十分な配慮をしなければならない。また、燃料携行缶からの給油が発生する作業従事者には、口頭による安全指示だけでなく、給油方法の詳細作業手順書を作成し、確認周知するものとする。
6. 管の切断場所付近に可燃性物質がある場合は、保安上必要な措置を講じた上、十分注意して施工しなければならない。
7. 鋳鉄管の管端面処理の施工に当たっては、以下の各号の規定によらなければならない。